

令和 3 年度の取組の報告

部会名	産業の担い手づくり部会														
部会の目的	1. 雇用の確保 2. 企業内社員のスキルアップ 3. キャリア教育 4. 農林水産業の担い手確保														
ターゲット	＜部会の目的 1～3＞ 高校生や教員、一般就職希望者、U I ターン者及びその家族等、 企業内社員、小中学生 ＜部会の目的 4＞ 農林水産業への新規就農希望者、非農家市民、保・幼・こ・小中高校生														
令和 3 年度 進捗状況・ 前年度から の改善点 ※実績数値 が分かるよ うに記載。	産業支援センター 基本目標Ⅲ 産業・観光振興による活力のあるまち 基本施策 3 ③次代を担う若者の地元就職の促進と定着支援 ○新入社員の定着を目的とした研修の開催 ・第 2 回 Masuda no Douki（新入社員のつながりづくり） [9/17 開催 参加者 14 名（企業 8 社）] ・新入社員合同研修会 [9/15 開催 主催:西部高等技術校 共催:益田鹿足雇用推進協議会 市内参加者 14 名 オンライン形式] ○地元就職の促進、益田に所縁を持つ大学生のコミュニティづくりを目的としたイベントの開催 ・ライフキャリア体験バスツアー [8/30 実施 参加者 11 名 訪問企業 4 社] ※コミュニティの目的：高校卒業後、市外に出た後も益田とのつながりを持ち続けられる環境をつくり、将来、益田で働きたい、暮らしたいという気持ちを醸成させる。 <table><thead><tr><th>指標名</th><th>現状値（R 元年度）</th><th>目標値（R7 年度）</th></tr></thead><tbody><tr><td>しまねいきいき雇用賞受賞企業数</td><td>4 社/累計 （平成 26 年度～令和元年度）</td><td>8 社/累計 （平成 26 年度～令和 7 年度）</td></tr><tr><td>キャリア教育に参加した企業数</td><td>187 社/年</td><td>250 社/年</td></tr><tr><td>地元高校生の市内就職率</td><td>36%</td><td>45%</td></tr></tbody></table> 農林水産課 基本目標Ⅱ ふるさとを想う心にあふれた人が育つまち 基本施策 4 食と農への理解の促進			指標名	現状値（R 元年度）	目標値（R7 年度）	しまねいきいき雇用賞受賞企業数	4 社/累計 （平成 26 年度～令和元年度）	8 社/累計 （平成 26 年度～令和 7 年度）	キャリア教育に参加した企業数	187 社/年	250 社/年	地元高校生の市内就職率	36%	45%
指標名	現状値（R 元年度）	目標値（R7 年度）													
しまねいきいき雇用賞受賞企業数	4 社/累計 （平成 26 年度～令和元年度）	8 社/累計 （平成 26 年度～令和 7 年度）													
キャリア教育に参加した企業数	187 社/年	250 社/年													
地元高校生の市内就職率	36%	45%													

③安心・安全な食の提供

○学校給食における地産地消の推進、食と農の重要性を学び、未来の担い手につなげる「ますだ食と農プロジェクト」（ますだ食と農の基本計画推進事業）

- ・認定農業者が栽培する農産物を学校給食へ

学校給食の地産地消率が低いが使用率、及び汎用性が高い作物で、土壌、栽培効率、施設等総合的に勘案し「じゃがいも、人参、玉ねぎ」を推奨作物とし、栽培を促す。

[地産地消比率（副食ベース）1学期（R2）32.22% →（R3）44.12%]

- ・翔陽高校が栽培する島根県版GAP「美味しまね認証ゴールド」を取得した米を学校給食へ [11/18.19 提供（給食便り、高校生による給食時授業）]
- ・翔陽高校が栽培する農産物を学校給食へ

[9/16 秋作ジャガイモを食と農PJ 関係者作付 12 月収穫 給食時 PR 予定]

④食と農に関する理解の推進

○市民の食と農に対する理解を促進する。益田の農や地域を支える担い手づくり（ますだ食と農の基本計画推進事業）

- ・ケーブルテレビを活用した農業番組の放送

「はじめての菜園生活」市民向け栽培講習、農の楽しさ、農業情報発信。

- ・市内小学生の校外学習による農地、施設見学

西部農地開発地にて、高津川第1揚水施設、堆肥センター、ぶどうハウスを見学し、益田の特産品（ぶどう）と水、土が密接にかかわりあうことを学ぶ。収穫体験あり。 [9/24 開催 吉田小学校 3 年生 90 名]

- ・多面的機能維持活動地元組織と翔陽高校の連携（Ⅲ-1-②基盤整備関連）
翔陽高校生物環境工学科土木コースと地元組織の協働活動に加え、高校生が下の世代（中学生）に農業土木の重要性を伝える取組みを実施。

[中西中 2 年 14 名 7/5 座学 9/10 体験 11 月実践]

- ・農業版カタリバ [市内小学校 秋開催予定]

- ・ちびっこ農園の開催 [益田市農林改良青年会議、吉田幼稚園 10 名程度]

指標名	現状値（R 元年度）	目標値（R7 年度）
農林水産物を購入する際に「地元産」を優先する人の割合（食育に関するアンケート調査）	35.0% （平成 29 年度）	40.0%
学校給食における地産地消比率	34.05% （副食ベース）	40.00%

基本目標Ⅲ 産業・観光振興による活力のあるまち

基本施策 1 特徴ある農林水産業の基盤強化

①意欲のある担い手の育成・支援

○農家や関係機関と連携した、農林水産業への新規就農希望者に対する支援

- ・体験・研修支援（里の守り人づくり事業等）

[今年度 7 人/年（現時点での予定） 前年度 9 人/年]

- ・体験希望者の育成（ますだ食と農の基本計画推進事業）

認定農業者連絡協議会・農林大学校・翔陽高校の意見交換会による、市内高校生に対する就農への意識付け [7/21 開催 40 人程度]

[アンケート結果(抜粋)農業を仕事にしたいと思う気持ちに点数をつけると?]

	40 点	50 点	60 点	70 点	80 点	90 点	100 点
実施前	1	4	3	3	2	3	1
実施後	0	3	1	2	7	3	1

②地域営農体制づくりと生産基盤の整備

○担い手の営農、農地集積に向けた生産基盤の整備

- ・施設園芸用ハウスの整備（産地生産基盤^ハワーアップ^ホ事業、ハウス等整備事業）
[ぶどうハウス建設（連棟ハウス 2 棟）予定]
- ・営農可能な農地の維持、環境の保全

[多面的機能支払い交付金]

今年度（予定）	昨年度
対象面積 688ha	682ha
活動組織数 28 組織	29 組織
総事業費 36,921 千円	35,880 千円

[中山間地域等直接支払交付金]

今年度（予定）	昨年度
対象面積 491ha	491ha
活動組織数 71 集落	71 集落
総事業費 61,865 千円	61,865 千円

指標名	現状値（R 元年度）	目標値（R7 年度）
農林業研修受入れ人数	6 人/年	6 人/年
担い手への農地集積率	28.3%	40.0%
新規就農者数	20 人/年	20 人/年

成果

産業支援センター

○新入社員の定着を目的とした研修の開催

- ・市内就職した新入社員達が 4 月からの社会人生活を振り返り、それぞれが持つ悩みや目標等を共有することで、今後も充実した社会人生活を過ごすためのヒントを得た。
- ・参加者は他社の新入社員とも交流を深めることで、本研修以外の場面でも繋がりを持ち、また本研修をきっかけに「オモイをカタチにワークショップ」等の地域交流型イベントに積極的に参加する者も現れた。

○地元就職の促進、益田に所縁を持つ大学生のコミュニティづくりを目的としたイベントの開催

- ・就職活動前の大学 1～2 年生に対し、地元就職の意識を啓発。
- ・大学進学によって地元とのつながりが希薄となっているところ、本ツアー

	によって、地元をテーマとした大学生コミュニティが形作られつつある。 農林水産課 ○安心安全な食の提供、食と農の理解の増進 学校給食への地元農産物及び美味しまね認証品の提供や、現地見学、ケーブルテレビやSNSによる発信等、非農家や子ども世代に対し、食と農の理解の増進を促すことで、益田市の農業を市民全体で支える土台作りにつながっている。 ○意欲のある担い手の育成・支援 農業に興味を持った若い世代や就農希望者が、体験・研修制度を活用することで、知識や技術の習得に専念することができ、スムーズな就農につながっている。 ○地域営農体制づくりと生産基盤の整備 研修等を経て就農する農業者が、営農地を選定や営農計画の策定をし、営農を開始するに当たり、施設や農地のマッチングの推進や営農可能な土地が整備されていることが、効果的な営農に繋がっている。
課題	産業支援センター ○地元就職の促進、益田に所縁を持つ大学生のコミュニティづくりを目的としたイベントの開催 ・企業訪問の内容は各社で工夫を凝らしていたものの、参加学生に魅力を伝える為には更なる改良が必要。 農林水産課 ○安心安全な食の提供、食と農の理解の増進 学校給食への提供 → 認定農業者連絡協議会との連携によるしくみの確立及び、協力農家の掘り起こし（大口の確保）等 ○意欲のある担い手の育成・支援 体験・研修希望者の増加により、関係機関と連携した、個々への細やかなサポートが困難な状況になっている。（R4以降市の義務負担を求める可能性有） ○地域営農体制づくりと生産基盤の整備 新規就農者の施設整備（農業用ハウスや作業小屋等）事業が、市義務負担分の予算確保が未定の為、現在活用できない状況にあり、初期投資などの理由で就農することが困難になってきている。

今後の取組 方針・計画	産業支援センター ○新入社員の定着を目的とした研修を開催 ・第3回 Masuda no Douki [12/17 開催予定] ○地元就職の促進、益田に所縁を持つ大学生のコミュニティづくりを目的としたイベントの開催 ・大学生向けライフキャリア体験イベント [1月頃予定] ⇒ライフキャリアバスツアーで形成されたコミュニティを強化し、より益田への関心、地元就職の意識を促す。 ・企業の魅力向上伴走支援 ⇒企業訪問の受け入れやインターンシップ、企業説明会に参加する際、求職者に対してより魅力を伝えるよう支援する。 農林水産課 ○安心安全な食の提供、食と農の理解の増進 - 農業に対する理解の増進に向けた活動を広げ、市民に対し SNS やケーブルテレビ等での発信による周知に努める。 ○意欲のある担い手の育成・支援 - 担い手への就農に向けた体験・研修等の継続的な支援を、関係機関と連携しながら行う。 ○地域営農体制づくりと生産基盤の整備 - 施設整備及び農地の維持管理の推進をするとともに、予算の検討を行う。
特記事項	情報発信に寄与した取り組み 農林水産課 ○ケーブルテレビやSNS等による発信 ・益田市農林水産課 facebook ページによる発信 ・ひとまるビジョン「はじめての菜園生活」他 農業情報発信 ・給食だより等での地産地消情報発信 ・市広報 翔陽高校農業土木の取組み「表紙 わがまちウオッチング（連載）」